

5 GSA の協議状況に関する追加質問 KDDI 回答

令和4年4月19日

KDDI 株式会社

接続料の算定等に関する研究会（第56回）を踏まえたご質問について、以下のとおり回答いたします。

【辻座長】

1. 協議に必要な情報と期間

以下の機能開放形態について、これまでの協議実績を踏まえ、同時期・同機能提供にあたり具体的にどのような情報・どれだけの検討期間が MVNO 側に必要と考えているか（提供〇か月前に〇〇に関する情報が必要、等。）。

- ① L3 接続相当（サービス卸）
- ② ライト VMNO（スライス卸/API 開放）
- ③ L2 接続相当
- ④ フル VMNO（RAN シェアリング）

【KDDI 回答】 ※赤枠は構成員限り

情報提供や検討期間に関して、提供する機能によって検討・開発範囲等が区々であることや、MVNO の要望に応じてカスタマイズを要することもあるため一概には言えませんが、想定される MVNO における検討期間、提供に係る開発期間や試験・検証期間等を踏まえて情報提供を行っております。例えば、NSA における L2 接続においては、既に LTE にて L2 接続を提供している MVNO に対して、機能提供まで約半年程度の期間をもって必要な情報提供を実施しています。

赤枠内は構成員限り

上記の考え方から①については、

標準プランの公表及び協議窓口を設置し、開発に要する期間、MVNO との試験・検証、MVNO における検討期間等を考慮しつつ、

サービス提供に必要な詳細な情報（サービス仕様、接続構成、経済的条件、スケジュール）を提示しております。

②～④に関しては、ヒアリング資料でも記載したとおり、現時点で提供の見通しは立っていない状況ですが、これまでの実績等を踏まえて想定した場合、以下のとおりと考えます。

②については、MVNO が想定するサービスや機能要件の明確化が必要と考えます。それら機能や仕様が、3GPP や GSMA 等の標準規定と照らし合わせて実現可能かを検討し、必要があればベンダーと協議の上、実装計画を立てることが必要と考えます。そのため、まず

は MVNO との協議を行うことが必要と考えます。そのうえで、開発の内容次第ですが、仮にベンダーによる追加開発が不要で単純なシステム開発の場合、標準的なスケジュールで、開発着手から完了までおおよそ 1 年程度の期間を要するものと考えます。

③については、ローミング接続方式について GSMA にて、今秋の策定完了を目指して標準化の議論中であり、それを踏まえて接続構成やベンダー実装機能が決まってくるものと考えます。ベンダーの標準的な開発リードタイムは、標準策定完了から約 1~2 年程度と想定されます。こうした前提が整うことで事業者間接続の検討が進んでいくものと考えます。その際において、MNO、MVNO 双方において設備を構築する必要があると想定され、両者における設備調達や、MNO、MVNO 間の設備の接続試験等を要することが考えられます。この点、従来の LTE/NSA における L2 接続においては、設備調達が可能な状況において、どの接続点で接続をするのか等が決まっている場合において、接続申込から接続開始まで最低でも 1 年程度を要していたことから、同程度か、内容によってはそれ以上の期間を要する可能性があると考えられます。

④については、3GPP 標準において、事業者間接続を想定していないインターフェースでの開放であり、MVNO 委員会との事業者間協議において整理されたとおり、事業者間での無線リソースの制御方法、トラフィック制御など広範な検討・整理と国際標準化が必要であり、様々な技術的課題が生じる可能性が高いため、現時点では、どのような情報が必要か、どの程度の検討期間が必要なのかが見通しは立っていない状況です。

なお、MVNO との協議内容や MVNO からのご要望を踏まえつつ引き続き情報提供に努めていく所存です。

以上